

=====

本メールマガジン[NEE Mail Magazine]は、経済教育ネットワークより Econ 会員（正会員）および Web 会員の皆様にお送りしております。

=====

◆◇  
◆ NEE Mail Magazine 36 号 ◆

2012-1-6 ◆◇

あけましておめでとうございます。昨年は「こんなことがおこってしまうのだ」と思わせる出来事がたくさんおこりました。年があらたまればそれが消えるわけではありません。悲観論にもならず、かつ過度な楽観や精神主義にもならないことが、現在は肝心なのかもしれないかもしれません。春からは、中学校で新学習指導要領にもとづく授業が全面的にはじまります。効率と公正が全国の学校でどう実践されるか注目です。大きな変動が予想される今年も、現場と経済学者と社会の三者をつなぐプラットフォームの場をめざすネットワークの活動をしっかり続けてゆきたいと思います。皆様のご支援をたまわれば幸いです。

さて、今号では、昨年 12 月の活動とこれからの予定などをお伝えします。

◆ 目次

【 1 】 最新活動報告

12 月の活動を報告します。

【 2 】 イベントカレンダー

1 月とそれ以降の活動予定をまとめて掲載します。夏休みの経済教室の日程が決まりました。

【 3 】 授業のヒント

【 1 】 最新活動報告

1) 年次大会を開催しました。

12 月 3 日（土）に 2011 年度の年次大会が、同志社大学至誠館 S21 教室で、北海道から九州まで約 50 名の参加者のもとで、開催されました。

今回の年次大会では、「経済教育と法教育の対話」のタイトルで、法教育と経済教育の連携や新たな視角からのアプローチがとりあげられました。

講演では、中川雅之先生（日本大学経済学部）から法と経済学の視点からみた『政治・経済』の問題』のタイトルで、ご自身の大学時代、官僚生活時代の体験や「政治・経済」の教科書における法関連の記述を経済の観点からいかに読み解くか、具体的な事例を盛り込んだ興味深い内容が話されました。

次いで、パネルディスカッション「経済教育と法教育の対話」に移り、司会 樋口雅夫先生（文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官）のもとで、太田正行（慶應義塾大学非常勤講師）、新井 明（都立小石川中等教育学校非常勤教員）、岩本知之（静岡大学教育学部附属島田中学校教諭）の三名の先生から報告を受けたあと、中川先生も参加され、4名でのディスカッションと質疑がおこなわれました。

この種のテーマでの講演やパネルディスカッションははじめてで、実践の紹介や法と経済の連携の可能性などをめぐり熱心な協議が行われました。

内容の詳細は以下の HP をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/announcement/index.html>

## 2) 経済教育ワークショップ in 福井を開催しました。

12月8日（木）福井大学で、福井県内の高校の先生方が約50名集まり、開催しました。

福井で第四回目になる今回は、講義が二つ行われました。野間敏克先生（同志社大学政策学部）による「教科書を読み解く金融」、篠原総一代表の「高等学校歴史を経済の視点で読み解く」です。野間先生は、サブプライム問題、直接金融と間接金融、利子の問題、サブプライムローン問題の三つに焦点を合わせて、教科書のいかに読み解くかを講義されました。また、篠原代表は、日本史の教科書から、第一次世界大戦後の高橋是清の金融政策をとりあげ、金本位制とその崩壊の理解を、井上準之助との対比で説明されました。

内容の詳細は以下の HP をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/activity/ws/WS20111208Fukui.pdf>

## 3) 大阪部会 (No.26)を開催しました。

12月10日（土）に、AP 梅田大阪で開催されました。出席者は13人。

篠原代表からの年次大会の総括、夏の経済教室の準備状況の説明ののち、丹松美代志先生（池田市教育政策課）からの教員志望の大学生向けの「東日本大震災を教材化しよう」という授業レポートの報告がされました。また、山本雅康先生（奈良学園中高）及び、関本祐希先生（森口市立大久保中）から法教育と経済教育に関する資料、授業提案がなされ討議されました。

内容の詳細は以下の HP をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/osaka/Osaka27report.pdf>

## 4) 東京部会を開催しました。

44回の東京部会が、12月20日（火）に日本大学経済学部7号館会議室で開催されました。出席者は14名。

篠原代表の活動報告のあと、法と経済に関して現場の教員がどう考えているかのアンケート実施の提案がされ、今後実施の可能性を追求してゆくことが確認されました。新井か

らは、来年の夏の教室のスケジュールの確定の報告、入試プロジェクトの取り組みなどが報告されました。次いで、宮尾尊弘先生から、ネットワークの HP に投稿された三つのテーマに関する説明がされ、効率と公平に関する学生の受け止め方、自由貿易の理解の不十分さなどに関する報告と討議がおこなわれました。

内容の詳細は以下の HP をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/tokyo/tokyo044report.pdf>

5) 「経済セミナー」の連載が HP にアップされました。

雑誌「経済セミナー」（日本評論社）で連載されている「中学・高校の経済教育」。連載後半年を経たものを順次 HP にアップしてゆきます。第一回目は以下の 7 巻 1 号のニューズレターに、年次総会の報告とともに掲載されています。ご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/reference/newsletter/NL7-1.pdf>

---

## 【 2 】 イベントカレンダー

---

これからの主な予定を日程順に掲載します。また、確定した夏の経済教室の日程を掲載します。

### ■東京部会 (No.45)を開催します。

1 月 17 日 (火) 19 : 00 ~ 21 : 00 日本大学経済学部 3 号館 13 階会議室 3

法と経済に関するアンケートの検討、夏の経済教室の内容検討他を予定しています。

参加方法は下記の HP でご確認ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/tokyo/tokyo045flyer.pdf>

### ■経済教育ワークショップ in 名古屋を開催します。

1 月 31 日 (火) 13 : 30 ~ 名城大学名駅サテライト

今回は、愛知県名瀬地区高等学校公民科研究会の定例研究会に協力するかたちで行い、篠原代表の国際経済の講義、新井の授業提案が予定されています。

内容、参加方法などは名瀬地区高等学校公民科研究会事務局（名古屋市立緑高等学校：052-895-0461、坂上誠先生）にお問い合わせください。また、詳細がわかり決定次第、HP にアップいたします。

### ■京都部会 (No.12)を開催します

2 月 2 日 (木) 19 時 00 分 ~ 21 時 00 分

場所：同志社大学 光塩館 2F 第二共同研究室

内容、参加方法は下記の HP でご確認ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/kyoto/kyoto012flyer.pdf>

■札幌部会 (No.2)を開催します

2月4日(土) 14時30分～17時00分

場所：キャリアバンク セミナールーム

経済教育の在り方、歴史と経済の関係などを参加者がディスカッションする形で進める予定です。篠原代表、猪瀬武則先生(弘前大学教育学部教授)が参加される予定です。

内容、参加方法は下記の HP でご確認ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/Sapporo/Sapporo002flyer.pdf>

■大阪部会 (No.27)を開催します

3月3日(土) 18時00分～20時00分

場所：未定です。内容が確定次第 HP でお知らせいたします。

■夏の経済教室の日程が確定しました

5年目になる東京証券取引所との共催でおこなっている夏休み「先生のための経済教室」の日程が確定しました。

8月2日(木) 広島会場、中学の先生向け

8月3日(金) 広島会場、高等学校の先生向け

広島の会場は、未定です。

8月6日(月) 大阪会場、中学の先生向け

8月7日(火) 大阪会場、高等学校の先生向け

大阪会場は、大阪国際会議場です。

8月8日(水) 名古屋会場、中学の先生向け

8月9日(木) 名古屋会場、高等学校の先生向け

名古屋会場は、ウインクあいち(昨年と同じ)です。

8月16日(木) 東京会場、高等学校の先生向け

8月17日(金) 同

東京会場は、東京証券取引所です。

ただし、電力事情等によって変更の可能性があります。

8月20日(月) 東京会場、中学の先生向け

8月21日(火) 同

東京会場は、同じく東京証券取引所を予定しています。

内容の確定はこれからになりますが、教科書を読み解く、歴史や法などを経済から読み解く、講演、入試問題から経済を教える、実践交流会などを予定しています。テーマや講

演者のご希望などがありましたら、ネットワーク ([contact@econ-edu.net](mailto:contact@econ-edu.net))までお寄せください。

以下、連携している関連団体のイベントを掲載いたします。

■金融教育フェスティバル<鹿児島>が開催されます

金融広報委員会が主催する金融教育フェスティバル<鹿児島>が1月29日(土)に開催されます。

内容、参加方法などは下記のHPをご覧ください。

<http://www.festival2011.jp/>

---

### 【 3 】 授業のヒント

---

#### 「新聞の読み方指南」

11月号で新聞の活用を書きました。今回はその続編です。

新聞をどう読むかに関しては、日経新聞などから読み方のパンフレットがでています。また、新聞記事を使った時事解説なども各種刊行されていますので、それを参照してください。今回紹介するのは、もっと簡単に新聞と友達になる方法です。4月の授業の最初に紹介しています。方法は四つです。

① 聞は裏から読もう。そのころは、日経新聞を除いて一番裏はテレビ欄です。その前は社会面です。さらに地方面、スポーツ面と続きます。生徒が新聞を読むとすると、テレビ欄が一番ではと思います。そして社会面のマンガ、あとはスポーツ面までゆけば第一段階は終了です。一面から読むではすぐに嫌になるだけです。だから裏から読んで、一面までたどり着くことを目指せ、これが目標になります。

②新聞は下から読もう。そのころは、新聞の下には広告があります。広告は重要な情報源です。例えば、一面の下にある書籍広告。三やつ(三段を8つに分けた書籍広告)とか雑誌広告の三むつ(三段を6つにわけている)などは貴重な情報源となります。全面広告もあります。どんな会社がどんな広告を出しているか、注目させてください。これはできれば二つの新聞を比較するとその新聞社のステータスや経営状態もみえてきます。例えば、日経新聞に大学の広告が載ることがあります。なぜだろうと考えさせることも授業になります。

② 聞は毎日読もう。そのころは、とにかく習慣になることです。そのためには、一つだけ毎日よむものを決めさせるとよいでしょう。おすすめはマンガです。サザエさんはいまでも社会史の重要な資料となります。「ののちゃん」、「こぼちゃん」、「あさつてくん」などマンガの主人公や家族と親しくなれば新聞は友達です。

④新聞は比較して読もう。そのころは、新聞社は違う意見をもっている。重大事件に関する見解の違いは教科書に取り上げられています。それは授業で扱えばよいということで、簡単な比較がいいでしょう。プロ野球の扱い、読売と朝日の違いから新聞の経営や書きぶりの違いを見つけ出すことも面白いと思います。社説など論説関係の比較は「あらたにす」という朝日、読売、日経のHPにある比較ページを検索させることもおすすめです。

紙ベースのメディアとしての新聞は、購読しない家庭も増え、時代遅れになりつつあるかもしれません。でも紙と活字は大事です。それには、難しい課題を出す前に、まずは読み方指南からです。(新井)

---

#### 【 4 】 編集後記 (みみずのたはこと)

---

年末に、金融経済セミナーでの実践報告のために一泊で高松にゆきました。

往復は飛行機です。今回は往復とも午前便で、窓側の席が取れたので、窓からの景色を楽しみました。

行きは、浜松上空までは晴れていて、相模湾、鎌倉などを見ることができました。名古屋からはかなりの雲で、新幹線は雪で一時不通になったとあとで知りました。大阪にでると雲が切れ、明石大橋を眺めながら高松へ。帰りは、前日より晴れていて、児島湾、岡山、姫路とすぎ京都も見え、琵琶湖の南まではなんとか見えましたが、関ヶ原以北はやはり雲でした。名古屋にでたら雲が切れ、前日の降雪の様子が分かりました。あとは、駿河灘から富士山を眺め、大島上空を経て房総から無事羽田へ。地図帳で親しんだ地形が沢山確認できて幸せな気分、得した気分でした。しかし、半面、それにしてもゴルフ場が多いなどというのが感想です。いまさらながら心痛む風景でした。また、谷筋に人家が点々としているところも見え、限界集落が確認できました。

乗り物によって外を見るのは子供の特権ですが、大人だって、まして教師だったらチャンスがあったら車窓や上空からの観察が必要と思った次第。でも、ひたすら外を眺めているこのひとはいったいどんな人だろうなと思われたらどうなあ。(新井)

=====  
登録に心当たりのない方、今後配信を希望されない方は下記会員ページよりお手続き下さい。

<http://www.econ-edu.net/aboutus/contact.html>

=====



---

編集・発行 : 経済教育ネットワーク

(C) Network for Economic Education ◆◇